

## ◆地域活動

### 北部地域における拠点産地認定に向けた取り組み

水産海洋技術センター本部駐在 上原匡人  
伊平屋村漁業協同組合 須永純平  
恩納村漁業協同組合 仲村英樹・又吉直樹  
水産課栽培流通班 善平綾乃・平安名盛正

#### 1. 目的および経緯

沖縄県では、沖縄 21 世紀農林水産業振興計画に基づきヤイトハタ、アーサ、海ぶどう等水産物 12 品目を戦略品目と定め、市場競争力の強化による生産拡大や付加価値の向上に取り組んでいる。これらの戦略品目の生産拡大および付加価値の向上を図るため、県では組織力をもち「定時・定量・定品質」の出荷原則に基づく安定的な出荷ができる産地を形成し、市場に信頼されるおきなわブランドの確立を進めている。北部地域においては、平成 27 年度に「伊平屋村のヤイトハタ」と「恩納村のアーサ」が新たに拠点産地として認定されたので、本稿では、認定を受けるまでの取り組みについて報告する。

#### 2. 各地域の取り組み状況

##### (1) 伊平屋村のヤイトハタ

###### ①平成 27 年 7 月 13 日

伊平屋村ヤイトハタ産地協議会が、伊平屋村漁協会議室において開催され、運営体制や検討課題、活動計画、目標生産量 (30 トン) 等について議論された。

###### ②平成 27 年 8 月 11 日

伊平屋村漁協会議室において、拠点産地育成計画書や認定申請書に係る打ち合わせを行った。

###### ③平成 27 年 9 月 1 日

農林水産部調整会議(幹事会)が開催され、議案の 1 つである伊平屋村のヤイトハタ拠

点産地認定に係る申請書や計画書の説明を行った。指摘・確認事項があったが、本会議の議案としてあげることが了承された。

###### ④平成 27 年 9 月 16 日

農林水産部調整会議(本会議)が開催された。幹事会で指摘された事項の説明を含め、改めて申請書と計画書の説明を行った。伊平屋村のヤイトハタが拠点産地として認定されることが了承された。

###### ⑤平成 27 年 10 月 29 日

伊礼幸雄村長をはじめ、諸見富男組合長、野甫聡農林水産課長、須永純平氏(養殖場担当)ら 5 名が出席し、島田勉農林水産部長より認定書が授与された。

なお、伊平屋村はモズクに続いて 2 件目の認定で、魚類養殖としては県内初の認定である。

##### (2) 恩納村のアーサ

###### ①平成 27 年 10 月 25 日

恩納村漁協アーサ生産部会総会において、今年度にアーサの拠点産地の認定を目指すことが確認され、5 年後の生産目標を 70 トン(平成 31 年度)とすることが議論された。

###### ②平成 27 年 11 月 16 日

第 1 回アーサ拠点産地協議会(設立総会)が恩納村漁協会議室において開催され、運営体制や検討課題、活動計画等について議論された。

###### ③平成 27 年 12 月 21 日

第 2 回アーサ拠点産地協議会が恩納村漁協会議室において開催され、拠点産地育成計

画書や申請書について議論された。文言等の微小な変更については、事務局に一任することとし、大枠について承認された。

④平成 28 年 2 月 10 日

農林水産部調整会議(幹事会)が開催され、議案の 1 つである恩納村のアーサ拠点産地認定に係る申請書や計画書の説明を行った。いくつかの指摘事項があったが、本会議の議案としてあげることが了承された。

⑤平成 28 年 2 月 18 日

農林水産部調整会議(本会議)が開催された。幹事会で指摘された事項の説明を含め、改めて申請書と計画書の説明を行った。恩納村のアーサが拠点産地として認定されることが了承された。

⑥平成 28 年 3 月 23 日

長浜善巳村長をはじめ、山城正巳組合長(産地協議会会長)、佐渡山安正農林水産課長(産地協議会副会長)、當山政男参事、比嘉義視事務局長、又吉直樹生産部会長ら 13 名が出席し、島田勉農林水産部長より認定書

が授与された。

なお、恩納村はクビレヅタ(海ぶどう)、モズクに次で 3 件目の認定である。

### 3. 今後の課題

両地域ともに、拠点産地育成計画に基づく安定生産および生産拡大が、今後の重要な課題となる。伊平屋村のヤイトハタでは、近年、前湾症等の形態異常個体の急増が問題となっており、発症要因の解明が急務となっている。また、恩納村のアーサでは、今季の 12~1 月の海水温が高めに推移していたこと(12 月+0.2~1.5℃, 1 月+0.2~1.8℃; 第 11 管区海上保安本部海洋情報調査課水温情報より過去 3 年との比較)から、藻体がほとんど成長しなかったこと、1 月後半に襲来した記録的な大寒波の影響により藻体が切れて流出したこと等により、前年度よりも生産量が減少する見込みである。引き続き、関係機関との連携を図りながら、巡回指導等を通して育成計画の実現に向け支援していきたい。



ヤイトハタの拠点産地に認定された伊平屋村



ア-サの拠点産地に認定された恩納村